

連日コタツにばかり入っていた 3 月の上旬、どうしても歩きたくなかった。あいにく、夫は 2 月の山歩きでぎっくり腰になり、しばらく安静にしていなければならない。

そんなとき、店のお客さんの吉川和夫さんのHP〈わんだふる山中湖〉に、厳冬の中、ご夫婦で山中湖付近の山歩きをされている記事があったので、自分もなんとか混ぜていただきたいと、ご本人にお願いした。

「つんだまって歩いているだけですが、よろしかったらどうぞ」とお返事をいただいた。この〈つんだまって歩く〉を具体的に理解したわけではないが、なぜ かわくわくして当日をむかえた。神奈川県の西丹沢というと遠く感じるが、実は山中湖から歩いて 2 時間ほどの、大淵の滝に行くことになった。知る人ぞ知る の、雄大な滝が 2 本ある。

残雪の斜面をくだり、春の陽射しを浴びてなだらかな林道を歩く。吉川さんご夫婦とわたしの 3 人、それぞれの歩調で抜きつ抜かれつ、ときどきおしゃべりしたり、また離れたり、追いついたり。人っ子ひとりいない道を、熊の出没を心配するわけでもなく、おふたりに気をつかうこともなく、時間に追われる わけでもなく、清々した気分で歩くことができた。山歩きをしながらおしゃべりするのも、かなりのストレス解消になるが、こうしてだまって歩くのも、お腹の底 から呼吸できて、気分爽快だった。

滝をながめながらお弁当をぐいっしょし、帰り道も、それぞれの歩調で歩けた。

帰宅後、辞書で〈つん〉(動詞について、その意味を強める)と〈つんつん〉(突き進む様子。すましてあいそうのない様子)という意味を調べて、その日のあまりにもぴったりの描写に笑ってしまった。〈つん〉が大のお気に入りになったわたしは、来冬もぜひ混ぜてくださいとお願いをした。